

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)箕面市船場東PJ 新築工事	階数	地上10F、地下1F
建設地	大阪府箕面市船場東2丁目	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	110人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	飲食店,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年12月 予定	評価の実施日	2022年6月6日
敷地面積	1,185㎡	作成者	塩田 雅樹
建築面積	835㎡	確認日	2022年6月6日
延床面積	6,447㎡	確認者	塩田 雅樹



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 3.3**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.2**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	省エネに配慮した。	その他 特になし。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆の建材を使用し化学汚染物質の発生を抑制した。	Q3 室外環境(敷地内) 可能な限り植込みを設け草木を植樹した。
Q2 サービス性能	維持管理において管理しやすい壁材、床材を使用した。	
LR1 エネルギー	LED照明及び省エネ設備機器を採用した。	LR3 敷地外環境 地球温暖化への配慮をした。
LR2 資源・マテリアル	節水に配慮した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R4-0032

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)箕面市船場東PJ 新築工事							
	建設地	大阪府箕面市船場東2丁目							
	用途/区分	集合住宅 飲食店							
【評価結果】	CASBEE 総合評価			B+					
①	CO2削減			4					
②	みどり・ヒート アイランド対策			3					
③	建物の断熱性			4					
④	エネルギー削減			3					
⑤	自然エネルギー直接利用			—					
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—

エネルギー消費量の報告

対象外

【評価項目】

項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.9	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	3.9	4
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	3.4	3
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。		報告する 報告しない -

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		